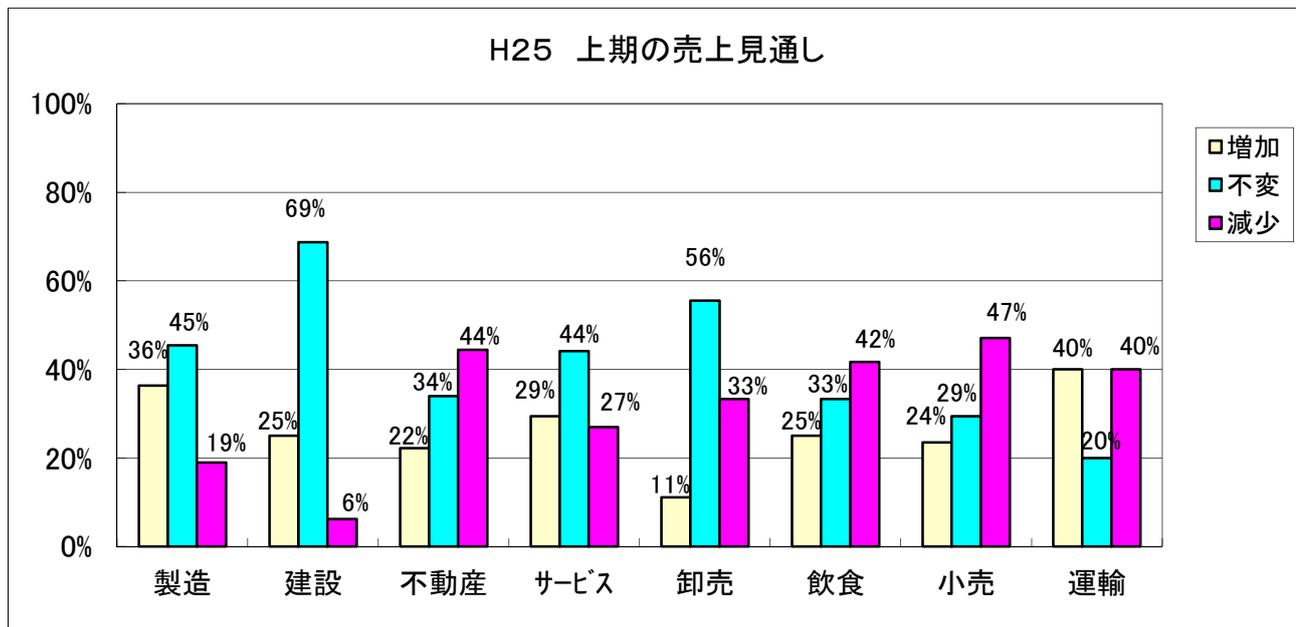


調査2 平成24年7月～12月を水準とした平成25年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

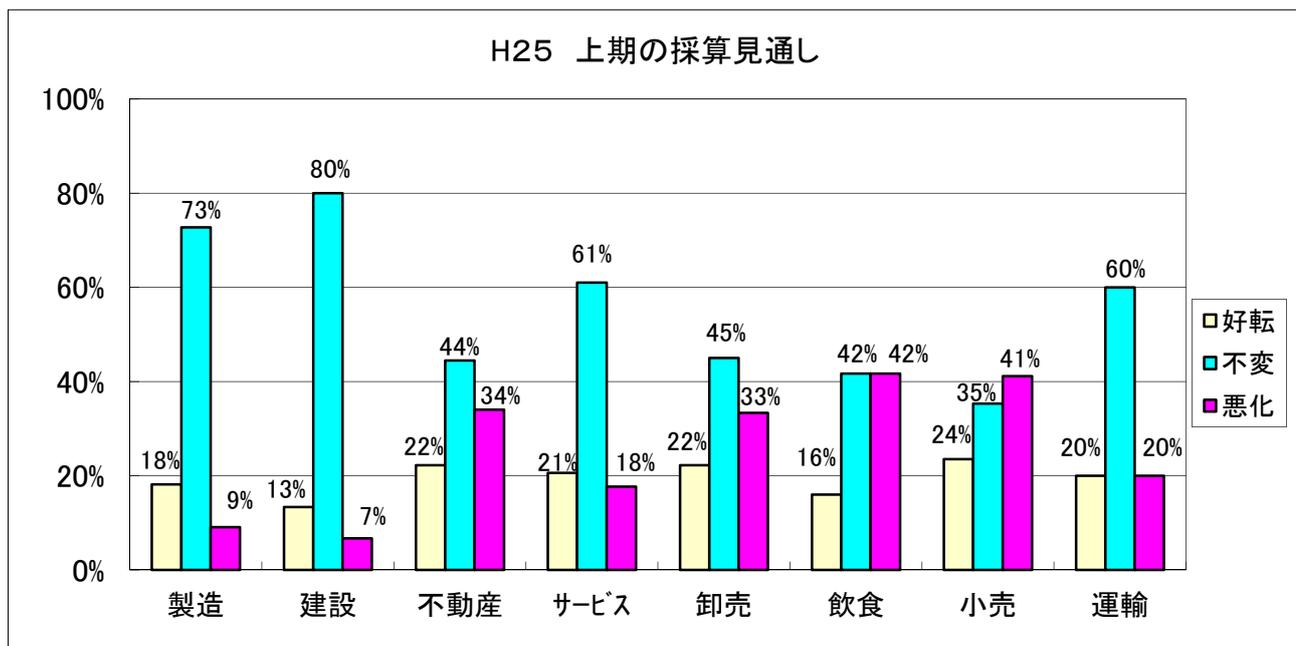
①売上見通し

全体で見ると「増加」27%（前回21%）、「不変」41%（前回52%）、「減少」32%（前回27%）となった。業種別で見ると「減少」より「増加」する見通しが多かった業種は、製造業、建設業、サービス業であった。一方、「減少」の見通しが多い業種は、小売業、不動産、飲食業となっており、厳しい見通しとなっている。



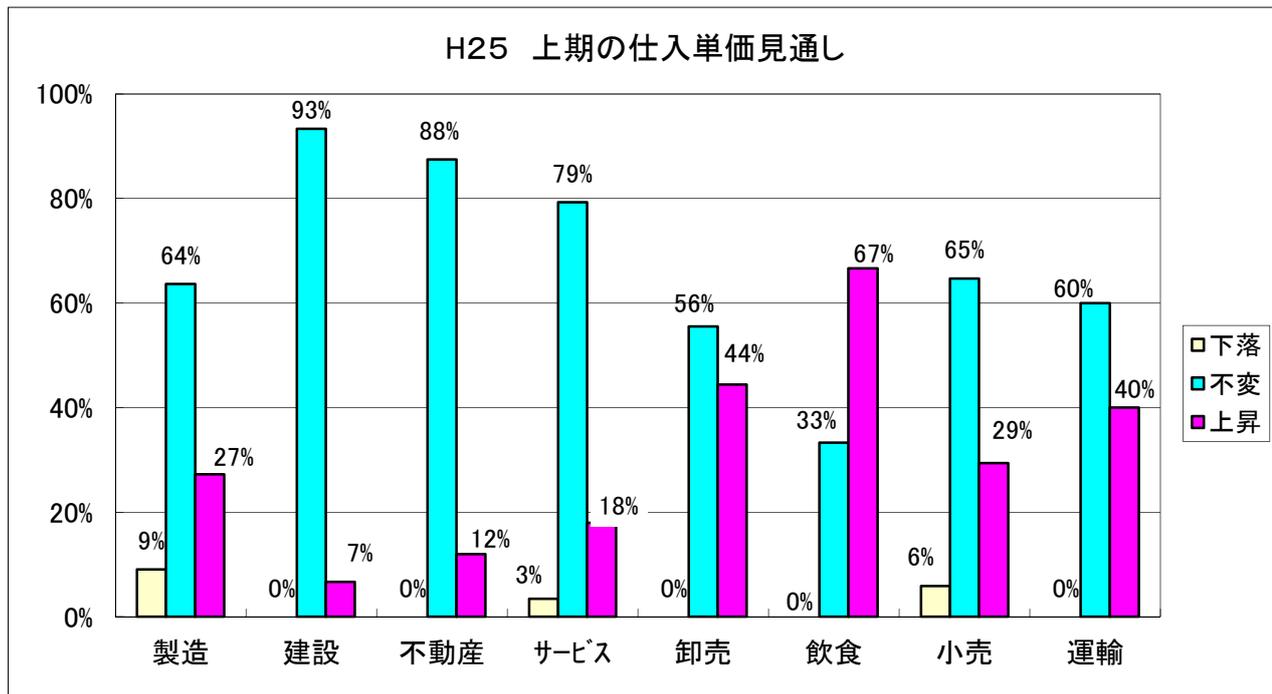
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が20%（前回12%）、「不変」が55%（前回60%）、「悪化」が25%（前回28%）となった。業種別では、製造業、建設業が採算見通しが「好転」との回答が多かった。一方、「悪化」の見通しが強いのが飲食業、小売業、不動産業であった。



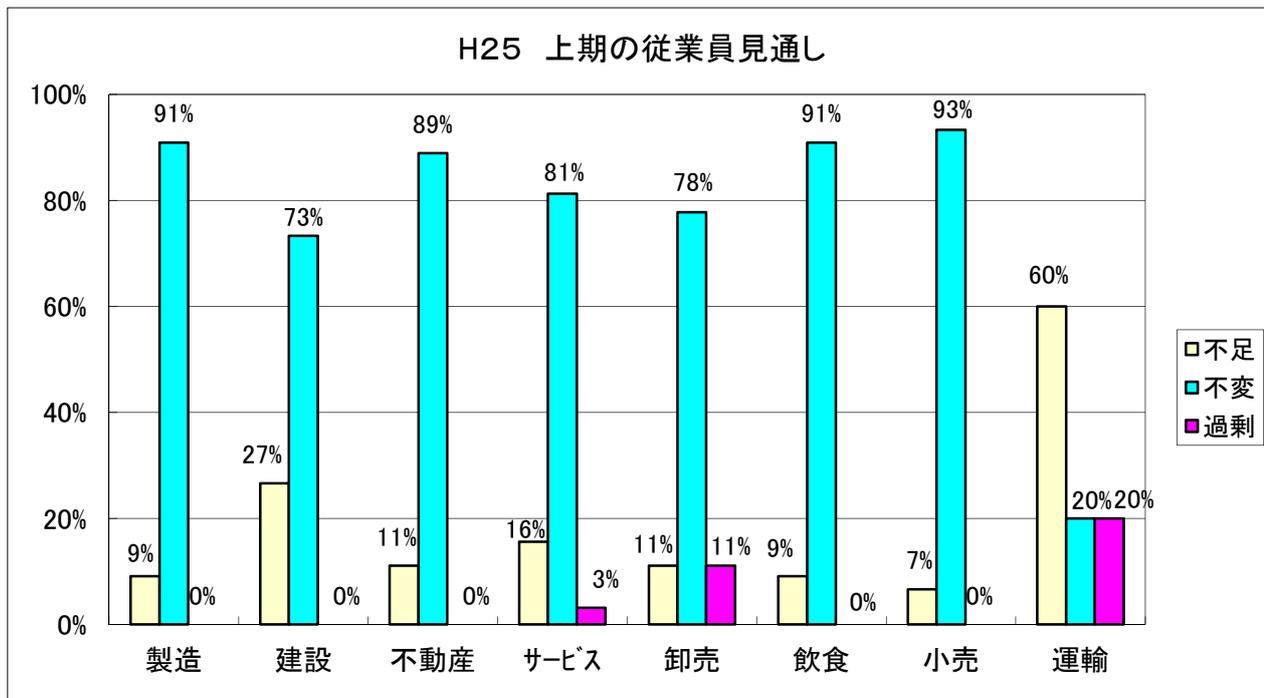
③仕入単価の見通し

仕入単価については、全体で見ると67%が「不変」と回答しているなか、「上昇」の見通しが多い業種は、飲食業が前回調査同様に65%（前回62%）と突出している。



④従業員の見通し

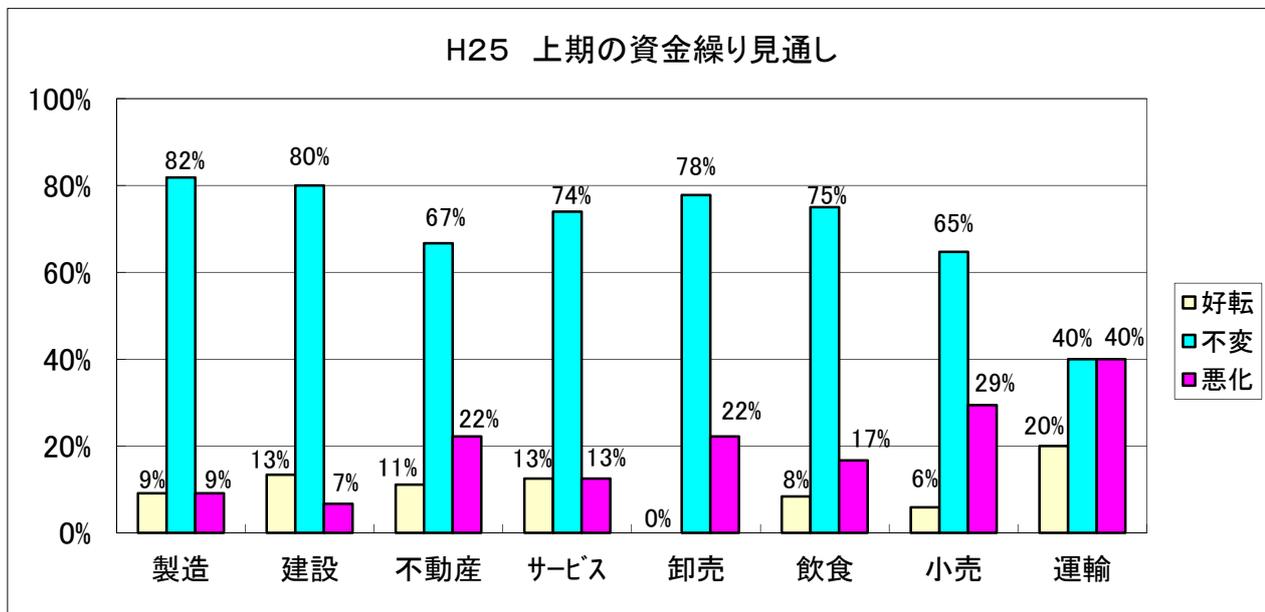
全体で見ると77%が「不変」と回答している。そのなかで、「不足」と「過剰」を比較してみると、「不足」が顕著なのが運輸業60%、建設業27%であった。



⑤業界の景気動向見通しについて
P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りについては、「不変」が全体で70%であったが、「悪化」の見通しが多かったのは運輸業40%、小売業29%、卸売業22%であった。



⑦金融機関の融資状況見通し

融資状況の見通しが「不変」と回答したのは全体で51%、「融資なし」が30%、「厳しい」が8%、「緩やか」が11%となった。業種でみると「厳しい」が多いのは飲食業27%であった。

